寛永諸家譜

醫者 針科 歯科 眼科

八巻之内

184

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186 (~~182~~) 184
函號 76 1

裏面記載のない箇所は省略

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

紀言
本覺
養泉
金保

寛永諸家系圖傳

清和源氏
細川

清和天皇九代
義清
義実
義季
俊氏

浅草文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

新田と号して

頼員

顕氏

陸奥守と号して

観応二年七月九日に卒して

法名道忠　道号雲峯　臨済宗と号して

公朝

新仏と号して

和氏

河波守　法名道倫　道号仙渓　禅宗と号して　河波にあり

頼春

九郎　贈従四位下　刑部大輔　生国三河の後醍醐帝建武の大内の乱と

朝廷馬場殿にて設く歳二十余源義

人と号して えをかく射えの
別 あり 中 びあ矢とをふてば
十矢 みふあ ふ又 ふ び あ矢と
も乱てば四矢 みふあ ふ 天顔よ
こぎ せ ふいるあ て 御衣そ
又 兵部殿とゆ し ふ れ り
よりて和歌一首 と て 白つ こ 夢よ い く
樺弓 り ま り 柳 れ
いとも ひ こ よ ひ び え く

帝賞歌 た ま ふ 年久し
仮光厳 帝 観 元 二年閏二月二十日 招
楠大軍 を率して 宮 入 光 仮
ま る り ま り 為中 て さ ぎ
て 為人 い を う ふ 時 り 春戎
職 ま り 引 ば て 鎧 び 馬 よ 鞍 と
び 白 絵 と 光 く 乗 て 地 り 兄
く 七 り 云 く い く 形 要
我 敷 旗 り あ り 相 白 く 国 と

なつてなつかれし新春が股肱の士同名よ
戦死をする者四人高橋六郎次郎
命を惜まず池たるゝ所に人馬共
ゝ乱れ平家と共に逃せり先
ども敵軍方より先と射逆ゝ四条
大炎ゝと討死を遂軍九時
乃人のいとく人臣節を死る此大義
を為世ゝあらゝのかまれと
孫ゝ強ゝ時ゝ家事

士所四筒井渭蔵河内四人の別ゝ
新宮が國次乃太刀と拵ゝいへど
海ゝゝあゝ四人ゝ股を切れよゝ
く太刀を又白刃俄小光をうゝ
多と変しゝくゝ四先より先づ
て人数太刀ゝ家ゝ
什物ゝ義と返股此人数ゝ
なり阿波ハゝふゝ細川氏

の封國なり法名祐繁道号寶洲
光勝院と号す髭鬚ありて唐帽
子をかぶる又手に珠を忍ぶ
此の新田彼の光勝院なりあり

源氏

法名雪林 号秋院と号す 法師なりあり

新之

弥九郎 右馬頭 武蔵守 生國三河
文とくし武とくしてなを
取の忠誠なるかなり
貞治六年寶篋院義詮疾甚し使と
なりて頼之を濃州より下
さる新之いうぎ京都ていこう
義詮幼君をさして新之をつげて
いく我今洲ていより一るとあるべん
又新之をさして幼君ていをめく

いとく汝が為にはり一文とげくあへて
こををへふるむくるかの孔幼君
ゆをはもふるもち鹿苑院義満をも
遂に顧托と交く箕作藏人信ぞる
事十三年世より名づけく戎列管
頃といふ時に俄に西南に走
るあわこばるる詩を作くいく
人生五十慌忽功　花木春過夏已中
満室蒼蠅掃難去　孤榻掃外清風

義満嚴父乃至云とをとをとしじ嚴満坊
にりるよせくく攻より入形之とをく
めくくるる慶長　箕作藏より信ぜしむ
的濃二年十二月嗚呼名民清旗崇と
率して満場にりせめ入国祈安危
此一戦にりあわ義満甲冑を帯ト
てお教之にり命じ法軍とあめて
四野にり陣どり国原と揮金鼓を
鳴し十万代兵一呼して進く血なが

まく横たはりよりて勝ちを一日の中
に決しまく逆臣悪く天誅に仆し
曰象多象河原乃乃ゆり首とロくるる
数千三日の戦場ゆとしく数之戦場
りこゆることのなし見より仆ふる
世りはまくへく内野合戦とつの敵之
強力軍中ゆりありく一級を食と
ふるもとはなどロくそくるもを入へ
く仏お饗天地仏をとぶひ立くく

食と三度吉例として代々元日ごと
ゆり饗膳を設くく一夕宴中ゆり
天人まく舞をなし和の歌一首とらか
ゆくいくく
百いしと百いしゆるとゆりしよ
うるしくも百いしきの那
三を潤ゆり三千乃百の字ありて礼を
くふすふくら嶽運の長久と祈と
ふるもの呆しくを云代とゆ孫

相撲くく大國を刻ちうち名第一義
一文殊と號して鄙乃名と為ざる
事百年見よりて新長新之二人
の百年忌ゆ立岳の大光と阿別の瑞
瑞府りまつりて壁度指香代大祈念
とまつく笠雲老師とて頼春が禪日よ
迎天隱老禪とて新之が禪日よ
天隱のいとく新長とつく信乃百
年忌のくゆ少とく内ことり

孫こ繁栄たくて者くく先
祖と遠帝とくの天人の瑞夢つく
若狭とたくとの家
明徳三年三月二日ゆ卒とく歳六十四
法名常久 道号桂岩 寺ある
て代永泰院といひ若りありて代
地蔵院とふ院り新之が本像あり
その大代ゆくとり天童 扉絵元
らくく華とくなくく像と安置と

頼有

右馬頭　家別府君の祖なり

頼元

聡明三郎　右京大夫より何とも生涯

法職三年

應永四年五月七日辛巳歳卒又

法名梵業　道号素林　妙覚と号す

東山にあり

満元

聡明五郎　後号伊予小殿　京大夫

何とも

應永法職九年

同二十三年十月六日辛巳歳卒九

法名道歓　道号悦道　岩栖院と

号す　京にあり

持元

聡明太郎　右京大夫と号し　生国山城

永享元年七月十四日に卒す　年

三十三　法名道秀　玉峰と号し

性智院と号す　天龍寺に葬る

持之

聡明九郎　従四位下に叙し　右京大夫

生国同前

嘉吉二年八月四日に卒す　歳四十

三　法名京宗　道号　仁崇　泉源寺

と号す　天龍寺に葬る

勝元

聡明太郎　右京大夫と号し　生国同前

文安五年　二度職　十二年

文明五年六月十九日に卒す

龍安寺と号す

持賢

典厩元祖

政元

駿州九郎　坂四位下より叙し　右京大夫

生國山城

文明十八年十一月廿日薨頓滅とかや

武蔵守に任ぜられ　従五位下に昇り　長享

永正四年六月二十三日香月院

宮ありあ　蔵四十二　法名宗真

道号雲関大心院と号す　如心なる

あり

澄元

駿州六郎　右京大夫より任ず　生母は阿波

政元嗣子なり　此人下屋敷久居

院之勝が嫡男とて　歩行とも

元亨元年なり　澄元いま

だゝ高せぐるゝ伊勢香西又六野心と
申さく屋敷託とゝつく改元が小姓
戸倉と相謀らく永正四年六月二十
三日乃夜湯殿より戸倉元
ゝ改元を宮ゝと申ゝ上ゝ羅
乃小姓波ゝ伯耆といつゝのあり
を使ゝく宮ゝ御見も又底と
申ふ事ゝ命令ゝ変り
ゝく戸倉速ゝ逃ゝ去ゝのち

香西九郎殿下の末子九郎殿を
ゝく京都が家督とはが志ゝんとゝ
ゝのゝゝ止ゝ見なゝ城西
嵐山嶺ゝ城郭と申ゝ人ゝ
都下の槍を執ゝ乱ゝ
澄元十六歳ゝ三好帝宮と石
ゝ三ゝ子を率ゝて池上
陣ゝ上京ゝ法ゝ花法お
ゝ十信ゝ陣百ゝの槍ゝ

て東西より相戰ふと雖ども
伯耆光弾より一番に戸倉
が首を討捕香西も後陣より
あらくと馳来り勝をひく首
実検ありて金襴を取り
流矢あるべく遂に矢疵
を蒙りて遂に敗北
なく澄元大に勝利を得るの
戦功雄武実に
後證のあるべき民軍に勝たまふ像
を祭せらるる例り懶く澄元と畫
工狩野の祖法眼して甲冑と弟
せる新を絵ひ日きめくよ宜作光
卿の賛を曷今よ
ものくと天龍寺
ものくあり百金錢後退く
の列り居
永正十七年六月十日に卒去歳廿
法名道泰 道号安宗 ものくと号

暗元

藤原左京亮　信濃守護　生國不詳

政元被殺後細川常植を國と京

北と号して

播州尼崎城郭を築て

威風を四方に吹ぶ

あるいは暗元十三歳いまだ藤原

たりしを尼崎より三好海雲

并可竹軒瓔珞丸を以てかくし

池上泉州堺乃津より陣どり

享禄四年六月四日天王寺の合戦

柳本とのゝ者ありかまが志節

ありかくし暗元大物を出

こゝ國敗軍に先陣に浦上と号

するものの水ゝ

おだれかくれ

諸卒も又溺死するものおの
変りてとしくこの國主と民屋よ
りて求出すに其ぞこの氣色より
者子数多乃たるふ迷あるぶのり
軍士見とみるに其中にたり
げある童あり国くのれよ熱風
とあるくるに此氣色
敗軍人ありや童答ていこれ
家に入道一人あるく大童に問

晴元天文元年より同十八年より
いくさまくまくまで長慶執権となる二
度目より三好方二八晴元が家より
あわくまくまで威烈他より矢なり同名
隆佐大夫長慶方へたがひよ不
和の仕あり同年六月二十官江ハ
乃急より合戦よりまくまくまで
宗三討死ハ同二十七日方松院義
晴京ハ晴元坂本より
在まくまくまで
同二十二年光源院義輝と晴元
再度より
永禄元年六月九日義輝晴元坂
本より進発まくまくまで藤と勝軍ハ
義より立郎ハ松永と白川ハ
まくまくまで一戦まくまくまで流血播とたがひよ
まくまくまで同十一月二十七日三好義和と
和親まくまくまで後退まくまくまで

同六年三月一日より卒もく嚴寛又
法名一清 道号心月 称寛院と号もく
天称寺りあり

女子

武田より嫁もく

信良

駿州六郎 右京亮より仕もく 生母山縣
織田信長妹婿

女子

長二十年十一月七日より卒もく
法名清雄 道号英豪 大称院と号もく

女子

赤松より嫁もく

女子

多馬より嫁もく

女子

本願寺顕如より嫁もく

国立公文書館
National Archives of Japan

女子

伊波國司の嫡女

某

前讃岐守

豊臣秀頼の法名

女子

秋田の嫡女

女子

尼

詮春

右近將監　生國讃岐

宝篋院義詮の諱乃字をたまふ

下の屋形乃元祖法名を宝篋道号を鼎

寶積院と号す

義之

前讃岐守　生國同前

二月一日より卒し　法名常長　道号
天祐　寶光院と号し　天祐寺あり

湯之

おさの波守　生國阿波
應永十二年十二月十五日より卒し
法名常喜　道号陽中　心境院と号し

持常

前讃波守　生國阿波
三月十六日卒し　法名道安　道号晋翁
桂林院と号し

頼重

前下総守　生國同
嘉吉二年三月十七日より卒し
法名常琳　道号玄岩　義境院と号し
天祐寺あり

海久

前讃岐守　生國同前

九月二十八日卒　法名常延

道号齡史心華院と号す

久之

生國同前

世をおさめんしるあり　諱を時久

之勝

前讃岐守　生國同前

法名道仙　道号心岩　久昌院と号す

しるしをもつて後國民を撫育す

天性繪の事をよくしみなら卒生

和歌をよくあらふ

永正八年九月十五日卒す

法名道定　道号大川　慈雲院と号す

持重

第廿五代　生國因幡

法名常麟　道号仙岳　源空院と号す

氏久

第十六代　生國因幡　一の波國司

弘治元年五月二十四日卒す　享年

法名道重　道号巻源　光院と号す

政勝

第廿六代　生國因幡

時元が嫡子なり　武職を受け

どうする職を継ぎ　時元逝去の

後因國より引き率て　法名を政

道号西仲　西院と号す

元亨

勅書の射　上総介　生国山城

入道紹高修禅と号す

京兆信良が家ゟ取り来る数

助と申す節と内々に示し

礼法と云ふ事

天正三年乃至信長の

恩賞を申し始めらる

同九年洛中ゟ出し馬揃の数

ゟ取り分け申し

数ゟ川狩長覚撰の京兆信良も

出し義者共に長谷川宗人

となり市中ゟ

とらる

同十九年　信秀山城西賀茂

ゟ出し仏地を内々侍

もらる事を悔ゟ

文禄四年正月五日より年を改め
十九 法名を道安 道号を泰叟 法諱を
改めたり

金隆

剃髪して紙屋と号す 生國和泉
堺屋秀吉父乃名なれば
金隆と紙屋と呼しむ
天正十六年より同十八年より

堺屋秀次より使ふ
文禄元年より秀吉より
名護屋陣に伴ひ
使ひ
大檜現より渡海
慶長十三年後府より使ひ
京より海
紀より板倉伊賀守勝重と
文乃紙屋の使ひたまふ

翌年まゝ後府より武家
なれば作原ち正統松平春嶽殿正久
大権現乃命とうけくいそ御江戸
ゝ御ものゝ
名濃院殿より勤仕とべしとなり
元亀ゝ年ゝ同年ゝ
江戸ゝ
名濃院殿より御つる
寛永十年より

将軍家より御つる御江戸
ゝ三十四年

某

又郎利髮して瑞益と号し生母武義
寛永四年此歳十二歳ゝ
名濃院殿より毎月御つる
土井大炊頭と
同十年

将軍家より召出しくゝ申つる時
酒井讃岐守と奏者ゝ
同十五年六月十一日ゝ死ゝ法名陽童
道号雲岩

女子
生國 山城
不動寺一流称揚寺より嫁ゝ

女子
生母 武義

典業上池院民部卿法印正祝ゝ嫁ゝ

某
千松 生國同ゝ
実者正祝が子金隆が孫なり
寛永十七年乃友松平伊豆守信綱と
くゝ金隆が願ひ許容
と仰ふくゝ十二歳ゝくゝめくゝ
将軍家ゝ拝礼しくゝ申つる

家乃紋二引両桐

藤原姓
伊達

京志

山城国　生國　愛宕山名郡
世々山名郡乃内諸井村百五十貫文
地を領し　今川氏　[illegible]の

大権現より賜りし西つの鉤命
くに小笠原六八郎よりおし
くに言天狗乃城を降りて厚軍
功あり
天正二年三月二十二日より討死せ
法名成慈

京長

京大夫　生國同お

大権現より賜りし西つの鉤命
神の城をまもる時より武田勝頼軍
兵を元さしくに競ひ来り城とりこ
みせむ京長又城をおはせ
弱く底をかくふ城元ふしを投く
きりぞくに三度刺殺して本望と
名ぶく後刑江戸より参じ来る山
梅雪とそのみくに年月をそくふ

寄りて醫学すりて治ず
眼科乃法書を續く粗乃術を
ら

慶長十六年正月二日死
法名道善日祝

京次

不覺　生國駿河江尾
寛永二年六月二十九日

將軍家御眼病あり時々召よ進じ
く治療つかまつる
同年七月六日　嚴命ありまく
御茶を献もく
同十三日
將軍家日光御社參乃記傳事
同年十二月黄金ならびに器服を
たまふ
同三年御上洛の時傳事

同年十二月廿七日切米をしりぞく

同八年九月

藤院殿御眼病あり時より　勾命す

ようやく日増殿平ゝ回復なり

同年十二月吳服を給ふ

同十九年十二月廿七日扶持方をたまふ

同十七年十二月廿六日米穀を給ふ

京元

本蓋

生國武蔵江戸

国立公文書館
National Archives of Japan

平姓

笠原

重次

与次郎　和泉堺より生る

利髮を〳〵ふ宮と号す

堺町中乃老と称し會合仕一人与力

独積流の目醫師六十歳にて死す

京師

俗名新藤　生國同前

父乃流を継ぐ　舎人代庭となる

独積流の同醫師　五十六歳にて死

重吉

新兵衛　生國同所

利賢ちゝ京師と号し相積ぐ同

醫師となる　四十二歳にて死

養泉

生國同所

父祖代家業を継ぐ　同醫師となる

享長十八年　江戸へ来る

寛永二年六月

将軍家へ御召抱

うのゝち御上洛なされ　日光

御社系のまゝ奉公とゝのふ

養子

生國武蔵江戸

寛永九年

将軍家より拝領しまつり候

養孫

生國同所

丹波姓
金保

後漢霊帝十二代
康頼
丹波矢田部の人なりそゞめて宿禰の
姓を賜ふ

後雅
近江掾

俊通

家女正　侍醫　従五位下　中務殿

季俊

女醫博士　従五位上

俊忠

女醫博士

保通

家女正　従五位上

時通

内蔵助　従五位上

経俊

左近　醫師

重俊
右京亮

資俊
内蔵助　正五位下

昌俊
東市正　正五位下

良俊
下野守　従五位下

良國
修理亮　従五位上

良任
典薬少亮

国立公文書館
National Archives of Japan

長俊

内蔵助

冬康

左京大夫　典薬頭　西口佐ノ下

大膳大夫　大蔵少輔

仰康

内匠頭　対馬守

兼康

典薬頭　内乃冨殿　左京大夫

頼定

施薬使　典薬頭　位立佐上

頼豊

施業使　典業頭　従五位上

頼秀

文内ノ　施業使　左京大夫

典業頭　内乃冨殿

頼量

左京大夫　施業使　治部ノ

従五位下

頼直

典業頭　正四位下

頼京

典業頭　従五位下

国立公文書館
National Archives of Japan

頼[illegible]

典薬頭　従五位下

頼重

頼元

一入　典薬助　従四位上

頼仲

侍従号　従五位下

頼房

典薬頭　従四位下　侍従号　上野介

玄泰

金保安秋　生國　山城

実ハ賀茂氏なり　頼元と親屬

[illegible]養子となり醫術を修し
兼康と称ず
大樹現乃出羽の字と避い向人倉保ず
あらしむ
享年十八歳
名濃院殿[illegible]
元和八年
將軍家[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan